南フランス運河事情
～ローヌ・セート運河クルーズを体験して～

研究第三部　主任研究員　大手　俊治

１．はじめに

平成１２年５月に、南フランス地方の運河クルーズを体験する機会を得た。フランス南部のラングドッグ州にはミディ運河、プロヴァンス州にはローヌ川の流れにより造られたカマルグ湿原が開けている。ここには、ミディ運河と連結してローヌ川に達するローヌ・セート運河が造られている。また、アルルでローヌ川から分流して地中海に達する、プティ・ローヌ川も運河として整備されている。これらの運河や川は、１６世紀から整備され１９世紀の初め頃まで物資輸送路として大きな役割をはたした。しかし、１９世紀以降の鉄道や陸上輸送の普及により物資輸送はその使命を終えた。現在では、クルージングを含めプレジャーボートの恰好な活躍場所として多くの人々に愛され利用されている。

今回は、これらの運河を５日間にわたり約 200km のクルージングを行った。

２．ミディ運河

今回のクルーズは、ミディ運河の東端、アグダ近くのポート・カサフィエールから始まった。ミディ運河は、フランス南西部のトゥルーズを起点としてタウ湖までの 240km に及ぶ１７世紀に造られた運河である。歴史と伝統のある運河で、1997 年にユネスコの文化遺産に登録された。運河の両岸にはプラタナスの並木が続き、運河にこぼれる木漏れ日が癒しと感動を与える。タウ湖に近づくにつれ汽水の影響からプラタナスなどの高木がなくなり土羽となる。侵食の進んだ箇所では木杭等で水路を維持している。プラタナスの根は、波から護岸の侵食を防止するとともに防舷材の役割をはたしている。

写真－１　ミディ運河の風景（プラタナス並木）

また、構造物で目をひいたのは、リブロン川の洪水制御水門である。リブロン川が増水時に、運河と交差する水門を開き、洪水や土砂が運河に侵入するのを防御している。またミディ運河の閘門は石造の円形状で長い年月を感じる構造物が多く見られた。

写真―２リブロン川の洪水制御水門

３．タウ湖

ミディ運河をぬけると一瞬、地中海かと勘違いしてしまうタウ湖に入る。タウ湖は水深が浅く湖面には牡蠣棚が広がっている。

風が強く、航路が示されていないため操船に苦労した。

写真―３　タウ湖の風景

写真―４　タウ湖を航行する

４．ローヌ・セート運河

タウ湖からローヌ川沿いのボケールまで約９７km の運河である。風景はミディ運河と一変して高木が見られなくなる。セートからグラン・モット付近までの運河は、ローヌ川等の河川が形成した沼沢地を貫くように走っている。そのため、両側に土堤を有する狭い一本の水路となっている。

写真―５　沼沢地内に土堤を築いて航路としている

湖沼側（北側）の護岸は、ほとんど土堤のままで所々に捨石や杭工が設置されている。一方南側（地中海側）には人家や高速道路、管理用道路があり練石積護岸が

施工されている。北側の湖沼内や州にフラミンゴ、草地には野ウサギ・馬・水牛が見られ、土手にはカワセミの巣が多くみられた。運河の風景としては単調であるが、運河が人の進入を防ぎ、湖沼の自然環境は保たれていることを実感した。

写真―6　漁をする人（鯉、ウナギ）

また、フロンティニアンからサン・ジルの間は物資輸送船舶が多く見られたのと、レジャークルーズ船の多さには驚くばかりであった。

写真―7　航行するタンカ

写真―8　材木の運搬船

運河は、エーグ・モルト、ボケールやアルルなどの古代ローマ時代から中世の面影を残す都市を連結し、船を交通手段とする観光を可能としている。

写真―9　エーグ・モルトと運河

5．プチ・ローヌ川

プチ・ローヌ川はヨーロッパの中でもレンタルボートで航行できる数少ない川である。このあたりでは珍しい近代的な閘門であるサン・ジル閘門をでると、乾いた感じのあるローヌ・セート運河とは違い、新緑に満ちた水辺の風景がみられる。

写真―１０　サン・ジル閘門
水位差 3.0m　195m×12m

写真―１１　プチ・ローヌ川

両岸には、ポプラ，プラタナス，マロニエ，アカシア等の高木がみられ、植物が水辺まで生い茂っている。河原は見られず、川幅いっぱいに流れがある。これらの樹木は、河川管理者の手で植えられているとのこと。洪水時の侵食を樹木の根で防御する考えなのだろうか、日本の護岸防御と異なっている。

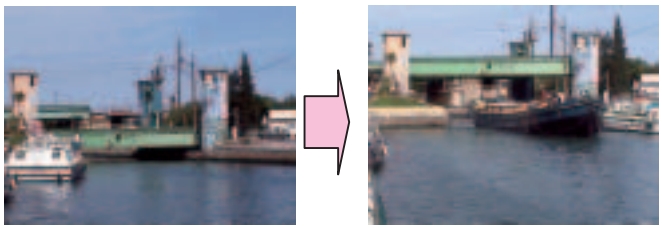
中央部の水深は５m程度と思われるが両岸は２m以下となっている。流速は 1.0m/s で我々が通った時の流量は 200m^3 /s 程度と思われた。航路区域は赤と黒の距離標で示され、航行標識が多くみうけられ舟運に配慮した河川管理が行われている。

6．運河の航行

運河の航行に際しては前述の水門のほか、閘門や可動橋(道路、鉄道橋)がある。

写真―１２　ヌリギィエ閘門
水位差 4.0m　セルフでの操作

運河の航行速度は 8.0km/h 以下の速度制限があり、閘門では、ロックキーパーが操作をしてくれる。キーパーはボランティアの人がほとんどで、若干のお礼を渡すのが礼儀のようである。



写真―１３　フロンティニアンの道路橋　１日　２～３回開く

7．おわりに

今回の調査では実際にボートを操船し、直に南フランスの運河を体験する事ができた。その中で、歴史的遺産であるミディ運河ではプラタナス並木のトンネルと石造りの構造物に歴史の重さを感じ、対称的なカマルグ湿原のなかのローヌ・セート運河は自然と人との共存を体験した。また、運河を行き交う船の多さに驚きを覚えた。やはり、ヨーロッパの舟運事情は日本と異なっている。それは、地形的な違いがあるが、レジャーに対する考え方や物・歴史の価値観がかなり違っていると思う。

ゆっくりとした船の旅が歴史の中に溶け込むの感じた。

チャーターボート

今回のクルージングで使用したボートは、CROWN BLUE LINE という民間会社がレンタルしています。だれでもチャーターできますが、操船には、フランスの内陸水運のライセンスが必要です。しかし、30 分程度の講習で、一隻につき一人に発行され、航行計画書に示した航海の期間は 16 才以上の乗組員に適用されます。ちなみに船の大きさは、長さ 14m、幅 4m、喫水 1.5m の船で定員は８～10 名です。設備は、ベッド 8～10 台、シャワー・トイレ３箇所、キッチン、冷蔵庫、ソファー完備です。レンタル料は１週間単位で、１隻約 45 万円(保険料込)、他にガソリン代約２万円です。